第１９回　市民参加懇談会コアメンバー会議
－市民参加による政策検討会議－
議事録

１．日　　時：平成１６年９月１日（水）１０：００～１２：０５
２．場　　所：虎の門三井ビル　原子力安全委員会第１、２会議室
３．出 席 者：木元座長（原子力委員）、碧海委員、新井委員、井上委員、
　　岡本委員、小川委員、東嶋委員、中村委員、吉岡委員
　（原子力委員会）近藤委員長、齋藤委員長代理、前田委員
　（内　閣　府）戸谷参事官、後藤企画官、森本企画官、
　　犬塚参事官補佐
４．議　　題：１．「市民参加懇談会ｉｎ福島・ふたば」の開催結果について
　　２．次回の市民参加懇談会の開催について
　　３．その他
５．配付資料
　資料市懇第19-1号　「市民参加懇談会ｉｎ福島・ふたば」概要
　　「市民参加懇談会ｉｎ福島・ふたば」アンケート結果
　　「市民参加懇談会ｉｎ福島・ふたば」議事録
　資料市懇第19-2号　「第９回市民参加懇談会」開催計画（案）
　資料市懇第19-3号　「第７回市民参加懇談会」アンケート結果
　資料市懇第19-4号　第18回市民参加懇談会コアメンバー会議議事録

６．審議事項

（１）「市民参加懇談会ｉｎ福島・ふたば」の開催結果について

○事務局より、資料市懇第19-1号について説明した。

（木元座長）「今年は暑くて電力がかなり消費されていて、去年だったら大変だったよね。」というようなことがあちこちで聞かれるが、先日も福島の方にお目にかかった際、「去年は大変だったと思うけれども、去年私たちが冷夏で農産品を中心にどれだけ被害をこうむったかということを忘れないでほしい。」と念を押された。このとき頂いたご意見は、原子力委員会に報告しましたし、また策定会議の方にも反映させていきたいと思う。

皆さん方のご意見がおありだと思うが、新井委員の方からお手紙をちょうだいしている。いろいろお感じになったことがこの中に書かれている。東電問題がかなり先鋭に出てくるのかと予想していたが思ったほどのことではなく、逆に立地点ならではの反応でいたずらに感情的な意見にならなかったのだろうと思い、信頼回復が実現したとは到底言えないにしても事態はその方向に動いているとそういう印象をお持ちになった。それは私も同感だが、そこのところをちょっともう少し膨らませて何かあればお願いしたい。

（新井委員）埼玉の方でやったときには消費地だったので、意見が何となくどこか評論家的で、感情と言葉がうまく結びついてないようなところがあったが、福島での話は日常の中で原子力が身近にあり、距離感がずっと近くて、生活感覚というか、言っていることが反対の方にしても賛成の方にしても、自分の体の中から出てくるような言葉であったので、非常にわかりやすいというか、あまり感情的になって理屈で反対だとか賛成だとかということではなくて、感覚の中からきちっと出てくる言葉だと思った。

それから、原子力委員会の方々がきちんとそろっていたということも、会場の雰囲気を非常に濃密にするという感じがあり、これも埼玉のときとは違ったのかなと思った。それだけ重視されているというふうに地域の方も当然受けとめたでしょうし、非常に効果があって、私は２回しか参加していませんからわかりませんけれども、随分違うものだなというのが実感だった。

（木元座長）東京でやる場合と地元でやる場合とでは違いが出る。町長もお二人お見えになりました。継続は力なりとも書いてくださいましたので、これ

は続けていく意味が大変あるなという実感を持っている。
それでは、ご出席なさった方で碧海委員、何か感想がおありでしたら。
（碧海委員）コアメンバーの立場というのをもうちょっと説明する必要があるのかなと思う。コアメンバーの意見が少ないというような感想があり、コアメンバーは意見を言う立場ではないんだというところがまだ十分にわかってもらえてないかなという気がする。その他は良かったのではないか。ただ発言者の方たちの中で、反対の立場側にもう少し強力な方がいらしてもよかったかなという気はしている。
（木元座長）随分事務局の方も出ていただく方をお探ししたり、交渉したりしていただいた。割合正直に原子力発電所に行ったことありませんなんておっしゃる方もいらしたので、反対派というのはこういう方もいらっしゃるんだろうかと改めて確認した次第でした。
井上委員、いかがか。
（井上委員）同じ場所で何回やってもその都度、その都度違うものだと思う。福島でやったこれが福島のすべてではない。福井でもそうだと思うが、ちょっとした地域差で意見というのは相当変わってくると思うので、もしこれを続けていくのであれば、福島はやったとか、福井はやったとかという、１回やってみんながわかるというとらえ方はしない方がいいのではないかなと思う。関西だったら、今回の事故が起きたことで、またどっと状況が変わっていくわけで、時期というものをバックに持った上でこういう意見が出てきたと判断したらどうかなという気がする。
（木元座長）小川委員、いかがか。
（小川委員）ご報告をお聞きしていて感じたことが３つある。１つは１０名の発言者の中で、国に対する要望をおっしゃっている文章が７つぐらいあって、原子力委員会及び国の責任というのをどう反映させていくかというのが今後の課題になるのかなと思った。
それから、私たちは冷夏による農産物への影響で大変だったとあったが、東京で冷夏で良かったといっていたその騒ぎ方というか、東京の安堵が日本全国のものじゃないんだという心の問題なんだと思う。私たちもいろいろな方の前でお話しするときに、土地のいろいろな状況を踏まえた上で言わないと、

知らないうちに人を傷つけることになるんだなということを感じた。
それから、多少のリスクも受け入れないという今の日本の風潮は国を衰退させるのではないかというご発言があったが、私も日ごろ同じことを思っており、日本人の国民性の中でリスクと便益というものをどういうふうに根づかせていったらいいのかと考えている。
（木元座長）東嶋委員。いかがか。
（東嶋委員）アンケート結果なども拝見していて、１つは東京でやったときと福島でやったときと公募とか地元の方々から参加者を出していただくとか、やり方が違ったわけだが、発言者をどのようにして選んだのかという疑問を持たれている方もいらっしゃったので、それを今後はっきりお伝えした方がいいかと思う。
それから、アンケートに、ふだん反対の方の意見がなかなか表立っては聞けないので良かったというご意見があって、地元の方同士でもこのように顔を合わせてお話しする機会というのはあまりないのかなと思ったのだが、そういう意味でも地元でやるという一つの意義があったのかなと思った。
３分間ずつの時間では足りないという方もおられたが、本音のところを聞きたいというふうに皆さん思われたときにもう１回目、２回目とまた意見を聞く時間もあったので、よかったが、そこのところを今後どうしたらいいのかなと思った。
（木元座長）それは、次に開催する市民参加懇談会の中のご意見としてぜひおっしゃっていただければありがたいと思う。中村委員、司会をやっていただいて。
（中村委員）「ｉｎ福島・ふたば」については、改めて前回のコアメンバー会議の議事録を読み返してみると、相当慎重に我々は取り組んだなという認識がある。それは東京の懇談会の方が一定の評価を得ることはできたが、あくまでも消費地、大都市であるということで、立地へ行くということでいろいろなことを話し合ったと思う。東京のいいところも使いたいし、反省点も何とかしようと。事実誤認は事実誤認のままで流していた東京を何とか是正する方向も出てきたし、アンケートを拝見しても委員長以下原子力委員会委員がお出でになるということの一種の安心感というようなものがあって、この

コアメンバー会議で議論して開催概要をつくった成果があったという感じを持っている。
それと、生産地についてはよくご存じのメンバーもいらっしゃるし、あまりご存じないメンバーもいらっしゃると思うが、本当に一つ一つで違う。東嶋さんが言われた地元でも反対派の人たちといわゆる推進派の人たちの意見交換がというのも、福島と新潟では全然違って、激しい議論になるような形のつき合い方というのはどちらかというと新潟で、浜通りというのは浜通りの歴史的な背景もあって、ちょっと違う。それを改めて感じた次第であったが、一つ一つの生産地には生産地の事情があって、それを我々が丹念に拾っていくことが大事で、井上委員が言われたように、敦賀は１回やったからいいよねというのは通らないし、浜通りももうやったよねというだけでは我々としては違うんだろうなというふうに思っている。
この後の次の開催案のところで、今回の反省というか、提案の部分はそのときにお話ししたいと思う。
（木元座長）吉岡委員。
（吉岡委員）この会も東京の３月の会もそうだったが、ご意見の発言者とコアメンバーの対話ということを基本としていて、外から講師を呼ぶということをしない方式で２回目だと思うが、それが割合うまくいっているなという印象を受けた。講師を呼んだ場合、どうしてもお呼びした方同士のやりとりというのが非常に多くなって、一般の方のフロアからの発言というのは時間的にも内容的にもかなり制約されていたけれども、今回及び前回の東京の会では特に招聘した一般の方には何度も発言の機会が与えられ、相互の議論の機会も与えられたという点はとてもよかった。しばらくはこの方向を続けるのがよろしいのではないかと思った。
ただ、公募にしなかったのは時間のせいもあるが、若干そこが足りなかったかなと思う。これからは東京方式に、簡単にはできないのかもしれないが、発言希望者にメモを出していただいて公募をするという方式に近づけるよう持っていくことが必要かなと思った。
それと、もう１点だけ申しあげると、国と自治体と事業者の３者の新しい関係というのがこの数年来、２１世紀になってから特に問題になってきている。

それは電力に関しては自由化が進み、自治体に関しては地方分権一括法が制定された。自治体は法律とそれに基づく政令にしか従う義務はなく、閣議決定には従う義務はないわけであり、長期計画にも従う義務はない。そのかわりに、エネルギー政策基本法で準拠責務規定を入れたのはそれを若干なりとも穴埋めするという意図があったものだと私は認識している。その新しい３者関係をどうつくるかに関して意識が古いのかなという感じがまだある。地元の方々の中に国に頼り過ぎているという傾向があったと思うので、その関係についていかに私たちも含めて討議をしていくか、共通認識を確立していくかということが重要であると思った。

（木元座長）次のステップに関して参考にするご意見をいただきました。近藤委員長、何かご感想はおありでしたら。

（近藤原子力委員長）この資料を拝見させていただいて、策定会議へのフィードバックの方法について、少し考えなければならないかなと思う。つまり非常に重要なそれこそ策定会議のメンバーの選定から、直近の安全問題まで非常に幅広くご意見をいただいているところ、こういう声があるということを策定会議の場にご披露するということは非常に重要であり、委員の皆さんにこういう議論を踏まえつつ委員会が苦労してあなたを選んだということを伝えるだけでも意味があるかなと思う。従って、議事録はなるべく早く議場に出していただくのがいいかなとそんな感想を持った。

（木元座長）齋藤委員長代理は、いかがか。

（齋藤原子力委員長代理）一つ感想で強烈に残ったのは、地域の人々が将来を心配されているということである。今あるものの廃炉がすぐ間近にあるのではないか、その後おれたちは一体どうなるんだというようなところを非常に心配しておられる。いずれにしてもある種計画的にスクラップアンドビルドをやっていくというのが私は理想的だと思うが、事業者がそういうものを住民に提示できればもう少し安心感を持って日常の生活をされていくのではないかという感じを持った。まだいろいろとあるが、時間の関係で１つだけにしておく。

（木元座長）続いて、前田委員。

（前田原子力委員）壇上に上がった方のご意見はそれぞれ事前に準備してこら

れて、考えていることのご発言であったと思うが、会場からの発言がいろいろと生の声で、非常に参考になるご意見が多かったと思う。
それから、地元のご意見というか、地元のいら立ちというか、それは国に対して、事業者に対して、それから消費地に対して向けられたいら立ちみたいなものだと思うが、それを非常に強く感じた。これはほかの立地地域、例えば福井県なんかでもよく聞かれる話であり、共通の問題でなかなか解決が難しいなという気はしたが、ここがこれからの大きなポイントだという感じがする。

（木元座長）それから、松田委員は当日福島にご参加いただいたが、今日ご欠席で、コメントを寄せていただいている。県民の声に耳を傾けたことは非常によいことで、東京との心理的距離が近くなって、顔の見える関係が有効であるというご意見、それから原子力政策が偏見なく理解されていくには、まだまだ努力が必要だと感じているのでこういう市民参加懇談会がその役割を果たすのではないか。それから、美浜の事故について、事故が起こってしまい残念であり、信頼は薄まるばかりであるので、それをどう穴埋めをしていくかというご意見、それから、原子力発電施設ではどのような事故も発生してはならない。それを前提にせずに原子力政策に国民の理解を得ようとしても不可能であると。私たちが意図としていることをそのままおっしゃっていただいている。

（２）次回の市民参加懇談会の開催について

○事務局より、資料市懇第19-2号について説明した。

（木元座長）それでは、順次資料１９－２号に沿って、審議を進めさせていただたい。皆様方のご都合をお伺いしたところ、１０月２７日、２８日、２９日の中で、一番多くの方に参加いただけそうなのは２９日の金曜日だった。一応２９日の金曜日と決めさせていただくが、これでよろしいか。小川委員のご都合は△だけれども、いらっしゃれるかもしれないということなので、よろしくお願いしたい。
そうなると、小川委員が入ると８名のご参加ということになる。原子力委員の方もできるだけご参加いただけるようにお願いしたい。

開催時刻だが、井上委員からご意見を先にお伺いしたい。やはりウィークデーだと１３時半から１７時半という時間帯が一番いいという感じか。

（井上委員）女性の方、家庭の方となれば、この時間帯が一番動きやすいが、企業の方とか働いていらっしゃる方の参加比率は下がるだろうという気はする。関係者、企業の方の事業関係者ではなく、ごく普通の皆さんの参加を期待するということであれば、こういう時間帯でやってみてもという気はする。

（木元座長）碧海さんもご意見がおありかもしれないが、女性が集まる場合に３０代の方に来ていただきたいという思いがあるがなかなか来にくい。そうすると、託児施設を用意した方がいいのかといった案もあるがそこまではしなくていいか。

（井上委員）かなり意図的にこういう人たちに集まってもらいたいと優先順位をつけたときに、３０代の女性であれば、託児所というのは今どきどこでもやるから、必要かなという気がするが。

（木元座長）それは応募による参加ご希望の方のリストを拝見した上で、こちらが用意するものは用意するという考え方でいいかもしれない。

（井上委員）託児をやったとしても、普通どこでもそうだが、キャパの問題から１０名までというふうに切ってしまう。そうすると、１０名の女性のためにすべてを決定していくということはちょっと無理があるのではないか。

（木元座長）状況を見ながら今後１０月２９日までに判断していきたい。時間帯は、１３時半から１７時３０分とし、第１部、第２部に分けて休憩をとることでいかせていただこうと思うが、何かご意見おありの方はいるか。碧海委員。

（碧海委員）終わりが女性にはきつくないか。

（木元座長）５時半。

（中村委員）５時半はちょっと遅いような気はする。

（碧海委員）ぎりぎりで５時か。

（木元座長）いかがか。

（中村委員）１つは、京橋でやるか、新大阪でやるかということもある。

（木元座長）これも大阪ということで、井上委員にご意見を伺っているが、我々が東京から行くのは新大阪が近くていいかなと考えてしまう。その場合、

新大阪から徒歩５分のレルミエールというところになるが、ＩＭＰホールというのは京橋駅から来やすいということで、大阪の中央に位置している。こちらの方が大阪の人にとってみれば近いということになる。前田原子力委員、どうか。

（前田原子力委員）ＩＭＰは都心だとおっしゃったが、京橋というのは都心といってもちょっと離れている。したがって、大阪市に住んでいる人にとってもアクセスは京橋でも新大阪でもあまり変わりない。むしろ新大阪だと地下鉄一本で行ける。両方のホールそのものは知らないが、どちらかといえば新大阪の方が便利でいいのではないかという気がする。

（木元座長）大阪の方で意見が違ってしまった。

（碧海委員）この２つのホールはどちらも借用可能か。

（木元座長）一応両方仮押さえしている。

（中村委員）どちらも会場設営の条件は一緒か。

（木元座長）そうだが、新しいのはＩＭＰの方である。

（碧海委員）地下鉄の駅に近い方がいいのではないかという気がするが、いかがか。

（木元座長）ＩＭＰは１０分歩くそうだが。

（中村委員）１０分はあまり便利ではない。

（木元座長）それでは、近藤委員長。

（近藤原子力委員長）必ずしも大阪府の方に限らず、例えば小浜とか、近隣の原子力関係地域からのご出席も期待するということがあるとすれば、その方にとっての都合のよさも若干は考慮していただくべきなのかなと思う。

（木元座長）福井の方からも美浜の事故があったのでかなり関心を持っていらっしゃると思う。そうなると、今、委員長がおっしゃったように、新大阪の方がいいのかもしれない。その辺どうだろうか。会場の設営の仕方のしやすさ、アクセスから、こちらでもう少し検討して、後で担当のコアメンバーを３～４人決めさせていただきたいが、そのメンバーでどちらかに決めるという方向でよろしいか。

４番目の検討事項であるテーマに入らせていただく。大消費地としてはこれまで東京で開催してきたので、今度は大阪かということで皆様方にご意見を

伺わせていただいて、一応大阪という方向で決まったのだが、テーマは長期計画に反映させていただくという意味で、核燃料サイクルを取り上げる案とした。ところが美浜の事故が検討中に起きた。そこで、「原子力の安全」を急遽トップに持ってきた。なぜこういう言葉にしたかというと、「原子力発電所の安全」とした場合は、放射能漏れがあるような事故を起こしてはいけない、とある意味限定されてしまうのではないかと懸念したからである。今回の事故を踏まえて、我々が原子力を施策として取り上げていく場合に事故というもの、安全というものをどのように評価していけばいいのだろうかという基本的なことを見つめていきたいと考えた。

新井委員からも美浜の事故に関して、これを市民懇でやるべきではないかといったご意見をいただいた。

そこで、「原子力の安全とは」については、核燃料サイクルのテーマに入る前に、時間の配分は短いかもしれないが、あるいはもしかしたらそれはとても長い時間をお取りしなればならないことになるかもしれないが、この「原子力の安全とは」と「核燃サイクルについて」の２つのテーマを取り上げていきたいと思っている。ご意見ありましたら伺わせていただきたい。吉岡委員。

（吉岡委員）最初は核燃サイクルだけでやろうかという話になっていたわけだが、美浜３号機の事故が起きてから、原子力の安全も加えてはどうかという流れになって、再度私の方にも案が送られてきた。それに対して私が返した意見は、２つやると散漫になるというのが１点と、もう１点は安全に関して私たちに当事者能力がどのくらいあるのか、私たちが伺ってもそれを政策に反映しにくいのではないかという、そういう観点から言えば安全というのは基本的に外して、核燃サイクル一本として元の計画のまま進めばよろしいのではないかとコメントしたように記憶している。ただそれに私は必ずしも固執するものではなく、皆様の多数の方が安全も加えようということであれば大いに結構だと思う。

（木元座長）私は異論があるが、碧海委員。

（碧海委員）私は事務局の方からお尋ねをいただいたときに、この２つを今のようなご説明の形で取り上げるとは思わなかった。むしろ核燃料サイクルを

やめて、原子力の安全ということでやられるのかと思っていた。
原子力の安全という言い方では何かよくわからないというか、しかも原子力にかかわる安全の問題となると非常に幅が広くなる。例えば、原子力発電所だけではなくて、放射線利用などいろいろなことがかかわってくるので、そういう意味ではタイトルとしてちょっと不十分なタイトルではないかなと感じた。
今お話を伺って思ったのは、むしろ核燃料サイクルを主にして、あくまでも美浜の問題は最近のニュースとしてというか冒頭で触れるという形にして、核燃料サイクルをやったらどうかと思う。というのは、核燃料サイクルは関係者の方たちは十分にわかっておられるけれども、一般の人が本当に核燃料サイクルについてよくわかっているかなというと、どうもそう思えない。そういう意味では、核燃料サイクルというテーマだけでもこれは相当大変ではないかという気がしているので、１つに絞って関電の事故はあくまでも最初に触れることにしてはどうかと思う。
（木元座長）新井委員。
（新井委員）私は全く逆で、核燃料サイクルだけを大阪でやったとすると、それは一般的な感情で見ている人から見れば、これだけ史上最大の事故が起こっているのに、核燃料サイクルの話を一般的な方から聞いても意味がないような感じがする。むしろ周知徹底するような講演か何かをやるのであればいいが、市民の方から核燃料サイクルについていろいろ意見を聞くということは意味を感じない。
むしろ今大事なことは、美浜の事故が起きてしまって、それをどう受けとめているかということをきちんとお聴きすることが一番重要なことなのではないだろうか。どういう意見が出るにしても、それを吉岡委員は受けとめられるかどうかとおっしゃったが、確かに受けとめられないと思う。ただ、そうはいってもそれをしっかり受けとめた方が、聴く時期としては正解なのではないだろうか。
（木元座長）たまたま大阪でやろうとしたときに関西電力の美浜の事故が起きたと、これは自然な感情の流れとして、市民懇を大阪でやるときに、「核燃料サイクルだけはないじゃないか。タイムリーに原子力で起きたことを取り

上げて、しかも市民を不安に陥れたことを無視できないじゃないか。」という感情が私の中にある。
そこで、安全についてやる意味があるのではないかと思った。岡本委員、いかがか。
（岡本委員）木元先生がおっしゃっていることはとてもよくわかるが、私の意見はどちらかというと吉岡委員に近い。それはどうしてかというと、例えばＪＣＯだとか東電の問題などと比べると、論じる幅のない事故であり、そうすると結局市民の方たちはいろいろな感情やある種の誤解が出てくる。おそらく出てくる意見の半分ぐらいは、「そんなことを言ったって放射能もちょっと入っているんじゃないの」など、何かそういうような、つまり後で膨大な脚注をつけて直さなくてはいけないような意見がおそらく３割とか４割とか出てきて、何か泣いている子をなだめるような調子になってしまいがちで、そっちへ調子が行ってしまうと、核燃料サイクルを論じるモードには戻れないと思う。
いきなり核燃料サイクルの是非だというところから議論が始まってしまうことは問題があるので、例えば美浜の問題については、何か資料を配布するなり、あるいは役所の方からパワーポイントか何かで経緯の正確な理解というものをご紹介して、そして、議論はなしにして、その後、核燃料サイクル一本でいく方がいいのではないか。美浜の事故の経緯については、ある程度詳しい説明を会場でこちらがいたしますと、公募するときも何かそういう注をつけて、しかしながらテーマとしてはサイクル一本でいくというのはいかがか。
それから、もう一つ思ったことは今申しましたように、美浜事故から始めてしまうと、核燃サイクルの話をするムードには戻せないと思う。ムードがひどく感情的になってしまう。しかも大阪なので、そうすると関電を血祭りに上げるような、何かそういう議論になりそうだと思う。
（木元座長）ご意見はよくわかる。たまたま大阪で計画して不幸というか、幸いというか、こういうテーマが持ち上がっているので、私は無視できない。
岡本委員の提案は折衷案的に理解している。
私の考えでは、今おっしゃったように保安院から何か持ってくるのではなく、

私どもの方に資料があるので、こういうふうに起こったということは簡単に１分以内でやれる。それから、今回の事故は放射能漏れはなかったということは新聞でもテレビでも言っていたし、これは非常にノーマルな報道だったと思って評価をしている。だから、感情的にどうこうというのではなく、原子力の老朽化ということで安全性について福井からご意見があるのではないかということがある。先ほど、幅が狭いとおっしゃったのはそのとおりであるし、だから逆に時間はとらないのではないかと思う。「原子力事業者なり、国なりは放射能が漏れなければいいということが先行してしまい、自主点検であったところが甘かったのではないか。」、「こういうところで事故が起こるんだから、安全というのはこういう方向で行ってほしい。」というご意見なりが委員会にできれば、私は万々歳だと思っている。だから、そんなに時間はとらない。井上委員。

（井上委員）私は核燃料サイクルの議論に参加させていただいているので、これは自分たちの仲間にも伝えなければいけないと思い、エレの会というメンバーが２００人ほどいるのだが、７回に分けて核燃サイクル一本に絞って学習会をしましょうとプランを立てた。

最初は、「核燃料サイクルって聞いたことあるね。１９兆とか、何かすごく大きい数字が出ているが、どういうことなんだろう。勉強しよう。」といって、みんなそれだったらと集まるようになって、１回大体２５人ぐらい集まってやっていましたところに美浜のことが起きた。そうすると、関心は「美浜の事故が今どうなっているか。」、「新聞記事と事実はどこが違うのか。」、「これからどうなるのか。」ということになり、時間は３時間とっているのだが、幾ら関西電力さんがよく説明してくれても、感情的にはもっと聞きたい。しかし、聞きたいというところは、今、岡本先生がおっしゃったように、まさしく論じる幅がない。

つまり、放射能は出なかったとか、一次系であるとか二次系であるとかという細かい説明をされればされるほど言いわけになって聞こえてきて、結局は行き着くところはどこへ行くかというと、結局幅が狭いから、事業者批判になる。つまり「すべて関電さんが悪い。」、「関電さんが悪いということは関電さんの経営者が悪い。」、「だから、技術の人もあんたも悪いし、何も

かもひっくるめて、要するに信頼できない。」というところに話が行く。そこへいってしまうと、今おっしゃったような評価基準ゼロプラスだとかという外部的な客観的なことを言っても、言いたくて来ているわけなのでとめられない。

今５回目となっており、だんだんと工夫している。とりあえず事業者サイドから事実をとにかく教えていただき、そのための事実のデータはいただく、一つ一つパワーポイントで説明していただくのだが、それで終わると「こうだったな、ああだったな」というレベルで帰ってしまうことになるので、ちょっと休憩をとり、美浜事故のことはまだプロセスの途中だから、１０月ごろになったらある程度の結果が出るだろうから、出ていたらもう一度お話を聞くということにして、頭をちょっと切りかえていただいて、核燃料サイクルの例えば難しいシナリオのレベルではなくて、核燃料サイクルってそもそも何でしょうねということを説明していただくということを３０分ぐらいやり、議論抜きで聞いていただいて、アンケートに質問を書いてくださいということをしている。

大阪で開催するのであれば、本当に悪者探しみたいになって議論にならなくなるが、かといって美浜の事故を抜きにはとても語れない。そこのところはある程度きちんと説明をし、そして意見も聞くといったレベルでワンクッション置いて、しかし核燃料サイクルは大阪だけの問題ではないので、日本の原子力のサイクルについて今こうなって国は動いていますというようなことを聞いていただいて、ご意見を伺うしかないかなと思う。また、１０月なのである程度結論が出てきている状態だと思うので、ちょうどタイミングがいいといえばいい。もし核燃サイクルにポイントを置くのであれば、大阪ではなくて別のところでやった方がいいのかと思う。今は非常にまだホットな状態なので。

（木元座長）井上さんのおっしゃることはそのとおりだと思う。今の段階でこういうプランを立てているが、おっしゃったように１０月２９日の段階では調査も進んでいるだろうし、関西電力の発電電力量の６０％ぐらいが原子力であるという現状があるので、そういうことを踏まえると原子力発電所で起きた事故というのは無視できないとつながっていくのではないかと思う。し

たがって、何らかの形で大きく分けてというより、核燃サイクルを主として市民参加懇談会をやろうとしたが、こういう事故が発生したので、ホットな状況の説明をさせていただいて、おっしゃりたい方が何人かいらっしゃると思うので、安全性ということについてご意見を述べていただくと、そういう形ではいかがか。岡本委員。

（岡本委員）私は思い切って順序を逆にした方がいいと思う。核燃サイクルの話を先に持ってくる。それで、美浜のことが出てきたら、それは後でやりますからと言っておいて、核燃サイクルについてある程度予定をこなしたところで美浜についての先ほど申し上げたような事実説明をして、その後、ご意見を伺う。そうしないと、さっき申し上げたように、先に美浜の方から入っちゃうとムードが戻せないと思う。

（木元座長）新井委員。

（新井委員）これは議論する場ではなく、ご意見を聴く場だとすると、そちらへムードが行ってしまうとか何とかというのはあまり考える必要はないのではないか。仕切りできちっと区分けはつくのではないか。

それと、これだけの大きな問題が起こっているのに、原子力委員会の市民懇がそれをまともに受けとめられないというのはまずい。しっかり受けとめた方がいいと思う。ただ、１０月だと時間が少し経つので、その状況でどうかということはあるから一概には言えないが、今の状況であれば間違いなくしっかり受けとめなければ、私が新聞記者であれば、原子力委員会は逃げたぞと書く。これだけの問題が起きているのに、小さな問題で片隅に片づけようというのはあまりよくない。これは正面から受けとめるという気持ちで臨んだ方が結果はいいのではないかと思う。

（木元座長）碧海委員。

（碧海委員）質問だが、大阪でやるということはどうしても変えられないのか。大阪ではなくてほかで開催して核燃料サイクルをテーマにやる方がいいと思う理由は、関西電力の事故は確かに原子力の関係者も一般の人も原子力に相当特化はしているけれども、私は原子力に特化する問題ではないと思う。これはむしろ、例えば三菱の自動車なんかの問題も含めて、企業の問題であって、だから何か今度大阪でこれをテーマとしてやったら、ますます本来は原

子力に特化した問題ではないのに、結局原子力に特化した問題とせざるを得ないという感じになってしまう。私は新井委員にむしろ反対で、そういうふうに見られる、つまり原子力に特化した問題ではないんだというふうに見るようにならないといけないのではないかと思っている。

（木元座長）そこは私と碧海委員のスタンスの違いだと思うが、原子力だからこれだけ大騒ぎされている。蒸気でタービンを回しているんだったらどこの発電所でも起こり得る事故である。原子力だからこれだけ大きくなった。原子力発電所は、だから不幸にもそういう目で常に見られているということを私たちはわきまえた上で、碧海委員がおっしゃった意味で、これは特化してやる問題だからということでは究極はそうなんだが、そういう認識を一般の方も持たなければいけないという話はそこでできる。

（碧海委員）だから、私は今度の事故でまたやってくれたというふうに思う。原子力の関係でまた起きたと。でも、これは人が例えば５人亡くなったことも含めて、これは原子力だけの問題じゃない。

（木元座長）それは一般論としてあり得る。だけれども、なぜ原子力だけがこれだけ騒がれて、大事（おおごと）のように１面トップになるかというところに原子力の特性があるわけである。

（碧海委員）それは騒ぐからでもある。

（木元座長）だから、どうして騒ぐんだろうということ。近藤委員長。

（近藤原子力委員長）手続的なことだが、福島方式というよりは東京方式に近くて、ご意見を募集して、発言内容を見ながらご意見を伺う方を決めるという手続を踏むとすると、今議論されているこのテーマというのを２つ書くと、ご意見を発表されたいと思う方は両方について自分はこう考えるということを書いて出す人を選択するのか、安全だけの人を選択するのか、核燃サイクルの人を選択するのかによって、こちらで議論の流れを予測することはできる。今、それをどうしようかというお話をしているとすれば、そういう観点でむしろ議論をされたらという感じがする。

それで、例えば核燃料サイクルだけに意見を限ったとすると、第２部で会場から「おまえたちは何をやっているんだ。」という声が出てきて当然であり、そこで必然的に安全問題に触れざるを得ないので、岡本委員の言われるよう

にそこでそれについてカバーするという手もある。
他方、最初に何か言うことにすると、今度は青森方式というか、最初に専門家が何かしゃべるということになってしまう。いずれにしても、まずどういう仕掛けでこのテーマをこなしていこうとするのかをちょっと整理しながらご議論いただかないと、まとまりがつかなくなるのかなとちょっと心配している。
（木元座長）吉岡委員。
（吉岡委員）今の近藤委員長の意見を基本的に生かしたいと思うが、岡本委員の意見に私は基本的に賛成で、まずサイクルをやって、その後安全にかかわる問題を議論をする、その際に安全を議論する際のモードとしては、サイクルと同じような冷静モードで議論したいということがある。
原子力の推進機関は必ずしも必要とは限らないが、安全規制機関はどの国でも絶対必要だと私は認識している。ドイツには推進機関はないわけだが、日本の場合には原子力委員会というのがある。しかし安全については基本的に安全委員会が所轄しているということであり、私たちが言っても政策に生かすチャンネルがやや不足をしている。
ただ、問題は安全委員会には市民懇談会がないということであり、私たちの果たすべき役割というのは考慮する必要はあると思う。その際安全問題が私たち原子力委員会に関係ないのかというと、全然そうではなくて、例えば原子力の安定供給特性を評価するには、安全問題から安定供給問題への大きな影響をどのように政策に反映させるかということを議論しなければいけない。実際におととしの東電問題で１７基が全部停まるというようなことが起きたし、今度も関電の原発の多数が停まるということが起きているわけである。
あるいは老朽化問題について認識が変わった場合には、原子力発電の将来見込みについて違う想定をしてかからなければいけないとか、そういう形で私たちの所轄する原子力政策に対して、安全についての国民の認識、あるいは事実が重大な影響を及ぼすということは明らかであって、そういう観点から原子力政策への影響ということを特に念頭に置いて安全問題について発言をしてもらうようにあらかじめ指示を出して、責任追及はやらないでくださいとは言えないけれども、事実上そういう趣旨の意見は落ちますよというよう

なニュアンスを込めたらいいのではないかと思う。

（木元座長）後段のところはやっとわかった。だから、あれは安全委員会のマターであるという考え方は持たないということ。近藤委員長。

（近藤原子力委員長）私も同じことを申し上げたかったのであり、私も重要性に差をつける意味で発言したわけでない。新計画策定会議でも、事故が起きて直ちに安全問題については、審議の重点は当面核燃料サイクルに置くとしながらも、安全問題について適切にレスポンスしたいということでご意見をいただいた。私も吉岡委員のおっしゃったとおりの問題意識を持っていて、むしろあえて踏み込んで言えば、原子力安全と労働安全というある種の行政の安全の仕切りに問題があるということも含めて、そこまで踏み込んで物を言うのかなということも考えつつ議論をしていただいているところである。適切によろしくお願いいたしたい。

（木元座長）岡本委員。

（岡本委員）私の提案は先ほどの近藤委員長のおっしゃり方からすると、事前の意見募集については核燃料サイクルのみについて募集しておいて人選し、ただし募集する段階から美浜のことについてきちんとリファーする時間も設けるということは明瞭にしておく。美浜の問題を正面から取り上げると、多分それだけを扱わなくてはならなくなると思う。それは原子力委員会で取り上げることなのか、原安委の問題かどうかもよくわからないが、どちらかというと保安院のマターである気がする。事故の概要からいって、私としては原子力委員会の市民懇が美浜の問題だけで開催するというのは何かそぐわない感じがある。

もう一つ言うと、先に美浜を取り上げると、市民の人たちの中には先に美浜のことをそれなりに弁解しておいて、意見を核燃料サイクル容認の方向に誘導するがためにそういう順序をとったというように誤解、曲解する可能性もなくはないから、核燃料サイクルをメーンにして、美浜の問題はアペンディックスというか、脚注のような扱い、しかしフェアな説明をするというのがいいかと思う。

（木元座長）ちょうど事故後２日目の８月１１日に第５回新計画策定会議を開催した際には、さまざまな市民感情がわき起こって、これは大変な事故だと

いう認識では一致し、原子力委員会もちゃんと関心を持ってやっていくという姿勢が示された。市民感情は、井上委員の話を聞いてもそうだが自然だと思うので、冒頭で真摯に受け止めようという思いがある。後でやると逆に混乱するのではないか。

　そこで、タイトルとしては、今回のテーマは核燃サイクルとしておいて、お知らせのところに、美浜の事故もありましたと、それを踏まえた上で安全性というものを頭に置きながらも核燃サイクルを考えたいというようなニュアンスを含めるのはどうか。そして、冒頭で座長の説明があるので、そこで事故について簡単に説明をして、公募の中のどなたかご発言者になっていただいた方にご意見があるならば二、三伺うなりして、原子力の安全性という観点から見れば、国も事業者もここまでウォッチしなければいけないというところを押さえて、その上で今度は本題にいきましょうという形にしていってはどうかと考える。小川委員。

（小川委員）美浜事故のことは最初に扱った方がいいという意見である。タイトルは美浜事故をどのようにとらえるかとして、第１部、第２部の外枠というか、木元座長の緊急セッションか、オープニングセッションか、緊急提案かわかりませんけれども、最初のセッションとして緊急に対応しなければいけないこととしてやったらどうかと思う。

（木元座長）私の提案は、セッションとかそんなにオーバーではなく、ごあいさつのところでやるというやり方である。

（小川委員）そのごあいさつをちょっと長めにして、プログラムにも美浜事故をどのようにとらえるかと書き出して、それを第１部、第２部の前にやる。その後、本論に入り、原子燃料サイクルにフォーカスしてやった方がいいのではないか思う。

それから、先ほどの碧海委員から、どうしても大阪かというようなお話があったが、これは計画に沿って検討してきた大阪の開催であり、計画どおりに大阪でやった方がいいと思う。

（木元座長）テーマの議論に少し時間をとったが、大事な所だと思う。まとめていきたい。ご意見を頂くテーマはあくまでも核燃料サイクルとし、ご案内の前文のところで美浜事故のことも触れる。そうすると、当日に冒頭の趣旨

説明で簡単に触れることは可能であるし、公募された方で発表なさる方の中に美浜事故に関してご意見がある方がいらっしゃると思うので、その方に二、三ご意見を伺うというのが一つの案だが、東嶋委員いかがか。

（東嶋委員）非常に難しい。ずっと考えていたが、私は吉岡委員、岡本委員のご意見に賛成で、今、木元座長がおまとめになったように、核燃サイクルをテーマにして、当然やはり事故の話も出てくるし、安全についても出てくるので、それは進行の方が非常に大変だろうと考えながら聞いていた。最初にまず受けとめますと言った後で、意見が出てきたときにどう対応するかが難しいので、テーマとしては核燃サイクル一本でやった方がいいと思う。

（木元座長）おそらく、今回も司会をお願いすることになるのではないかと思う中村委員、いかがか。

（中村委員）まずご意見の公募だが、もともとこれはいわゆる長計、新計画策定のために市民懇はずっと全国で意見を聞いてきていますと、その流れで核燃料サイクルについてお伺いしようとしていたときにこれが起きたと。だから、我々は皆さんのご意見を聞くということが基本で、何を聞きたいかということはこっちが決めていいわけだが、でもタイムリーに対応もしなければいけない。したがって、今回についてはもともとのスケジュールで核燃料サイクルについて新計画のためにご意見をお聴きするのだが、ご承知のようなことがありましたと、だから募集のときから、メーンのご意見は核燃料サイクルについてお聴きしますが、美浜事故と原子力の安全についても当然ご意見をお寄せくださいと逆に表に出した方がいいと思う。それで、発言者は我々が選定するわけなので、それは全体のバランスを考えてやりますし、あとは実際４時間なら４時間という時間をどう使っていくかということをこちらが考えればいいので、意見を求めてやるなら最初にやるべきである。

座長が我々の市民懇の説明をするときに、これは新計画策定のためにご意見をお聴きしているスケジュールだけれども、まず美浜事故についてもご意見をお聴きしますということを言っていただいて、はっきりと美浜の事故と原子力の安全について皆さん何を考えますかというのを聞いた方がいいと思う。そのご意見をいただいているので、まずその発表をしていただきましょうということでやっていいように思う。あとはちょっとスケジューリングでうま

くバランスをとってやっていけるかということ。
それから、いずれにしろ核燃料サイクルの話を聞きに来ましたといっても、それでは済まない。当然、関電はプルサーマルに名乗りを上げているのだから、そんなところにやらせられるかと、なぜなら美浜だって信用できないじゃないかという話に当然なる。安全ということも、皆さんはある程度知識があるから、それは原子力委員会のタームであるとか、原子力安全委員会のタームであるとか言うけれども、一般市民にとってはそんなこと関係ない。
ですから、委員長も多分来てくださると思うから、逆に何か発言を求められたところで、原子力委員会としても安全についてはこういう姿勢で臨んでいるので、今回のことについてもこういうつもりで安全というテーマは新計画の中にも入ってきますよということをお話ししていただければいいと思う。
（木元座長）井上委員。
（井上委員）非常に正確な知識というか、どこがどうなって、そして２８年のプロセスでどこでどうボタンをかけ違えたかという説明をきちんとやっていただいてから、ご意見を聞くというふうにしていただきたい。
（中村委員）１０月の下旬という時期なので、相当まとまったものが出ると思う。これは座長が解説されていいのではないだろうか。
（木元座長）そこを伺いたかった。私はまとめて自分でやった方がいいと思っている。説明会ではないので、保安院を呼ぶとかではない方がすっきりいくと思う。
（碧海委員）こだわるようだが、テーマとして「原子力の安全」というのはどう考えても大き過ぎると思う。そこまで言うなら、「美浜の事故と原子力発電所の安全」ならいいが、「原子力の安全」というのは反対である。
（木元座長）それはおっしゃるとおりで、今流れの中でこれはやめて、核燃サイクル一本でやっておいて、ご意見募集やご案内に入れようという方向になっているので、それはそれでいいか。
（碧海委員）それはいいが、「原子力の安全」というのは。
（木元座長）それは使わないと論議された。そういう方向で今だんだんまとまってきているので、プランを立ててみる。２９日ぎりぎりになるかもしれませんが、基本的にはそういう方向で行くと、原子力委員会の姿勢はこうであ

るということだけは堅持していきたいと思う。小川委員。
（小川委員）質問だが、この場に関西電力の方を呼ぶということはないですね。
（木元座長）今のところは考えていない。ただ、現場にはいらっしゃると思う。聞きにいらっしゃる。会場はフリーですからもしかしたらご発言があるかもしれない。
（中村委員）敦賀でやったときの反省の中で、いわゆる説明役というのをこっちが用意してしまうと、どうも市民懇の独自性が確保できないし、だから基本的には福島のスタイルかと思う。東京の反省の上に福島があったので、ｉｎ福島・ふたばの基本線でしょうか。
（木元座長）だんだん市民懇も成長していきますから。
それで、今、中村委員からいろいろご発言があって、司会を決めなければいけないことになっているのだが、設営方法は前回と同じで、ロの字型にして、どっちのホールになるかわからないが、ホールに合わせた形で周りに一般の方にご参画いただくという形でよろしいか。
それで、司会だが、私の意見だが、ここまで全部仕切ってくださって、ある程度飲み込んでくださっているので、中村委員に司会をお願いしたいなと思うが、いかがか。
では、そういうことで決めさせていただきたいと思う。
それから、この前のｉｎ福島・ふたばはご発言者が多過ぎたと、公募で発表していただく方は５人ぐらいがいいんじゃないかというご意見がある。その辺どうか。こちらは８人ぐらい行くことになる。そうすると６人ぐらいか。
（齋藤原子力委員長代理）美浜事故と核燃料サイクルの時間配分をどうするかによるのではないか。
（木元座長）美浜は特に指定しない。
（齋藤原子力委員長代理）美浜の事故に要するに３０分割くのか、１時間割くのか、それから一般の方が何か意見を述べる機会をどのくらいつくるのか。
（木元座長）公募の中でどうしても言っていただきたいというのがあれば採用するかもしれないし、それはフレキシブルにやっていきたいと思う。それは確定されていないが、当日メーンのテーブルに座っていただく方は何人ぐらいがいいかなと、ｉｎ福島・ふたばでは１０人だったが、それはちょっと多

いという意見があったということである。吉岡委員。

（吉岡委員）ｉｎ福島・ふたばの場合には、事前にこちらから指名するという形でやって、そのせいもあったかもしれないが、どうもさまざまな業界だとか、そういうところの代表が集まる形になって、その結果として意見の一様性の度合いが随分高かったように思う。それに対して公募した東京の場合には９人だったけれども、それぞれ個性的な意見をおっしゃられた方が多かったと思う。大阪でやる場合にも、出られる方は恐らく東京に準じたような方々が出るであろうと思うので、特に減らす必要はない。したがって、こちらが８人でいくなら、８人が良いのではないかと思う。

（木元座長）福島の場合はなぜかというと、あそこは８カ町村が原子力の協議会をつくっている。現地からの要望で、各地域から１人ずつ出してくれということでとても大変だった。だから、言いわけっぽくなるが、その地域、その地域によってやり方は工夫する必要がある。

　今、人数的には８人ぐらいでとあったが、公募という形で８人でよろしいか。碧海委員。

（碧海委員）核燃料サイクルがテーマということなので、できるだけ若い世代に意見を聞きたいと思う。ところが当日は勤務時間内でほとんど働いている方たちが来られないということがある。だから、できたら事前に例えば若い世代だからホームページの利用もできるので、事前に何かアンケートのようなものをとることはできないか。

（中村委員）アンケートのような形をとるというのと、我々がやっているこの市民懇でご意見を聴くというのはもともと性質が違うように思う。

（碧海委員）ただ、要するにあくまでも市民参加懇談会のための基本資料として、何か若い世代の声を拾う手はないものかと思う。

（木元座長）インターネットの利用というのは若い人が結構多いが、例えば、原子力委員会に寄せられてくるご意見とかご質問があるのだが、その中から拾うという可能性もなきにしもあらずだが、正直申し上げて数が少ない。

それと、もう一つ、ほかの例を見てみると、いわゆる反対する方々が大変にアクティブにいろいろネットを使ってやっていらっしゃるが、核燃料サイクルは良いじゃないというような方はなかなか見当たらない。だから、それを

どう拾えるかということがあるので、一応公募の形でやってみて、アンケート云々は後で担当を決めさせていただくときに論議させていただくことにしてよろしいか。

（碧海委員）公募はホームページを使うのか。

（木元座長）使う。その方法も埼玉でやったときにチラシにしたとか、いろいろな方法があるが、基本的にホームページには必ず載せる。

それでは、８人ぐらいを公募から人選してやるということで、その際、若い世代を入れる、それから男女比もあるだろうし、意見の違いも同じ方向に偏らない工夫はこちらでさせていただこうと思う。それだけのきちんとした理由説明をつけて、８人を選ばせていただこうと思う。

応募の方法だが、ホームページは使う。それ以外に東京の開催では、これまで市民参加懇談会に来てくださった方にご案内を出して公募させていただいた。そういう方法もある。それから各種団体に呼びかけるという方法もある。どうだろうか。会場は２００人から３００人を予定しているので、それぐらいの方が集まっていただけるよう意見公募のお知らせをしなければならない。

（井上委員）メールでもできる。そういう学習しているような団体にはチラシのようなものが来るのか。

（木元座長）チラシはそれもつくる。ダイレクトメールのあて先だが、井上委員の会もそうだが、福井も声をかけようと思っている。大阪エリアということで。

（井上委員）例えば、大学生なんかはどういうふうな方法をとろうと思っておられるか、例えば招聘するにしても参加していただくにしても、関西も大学が結構ある。

（木元座長）例えば京都大学なんかに出した方がいいか。

（近藤原子力委員長）原子力学会、その他の学会のホームページに広報のページがあるから、そこを使うと学生にも伝わるようになっている。何千人でも伝わる。

（犬塚参事官補佐）あと東京のときにやった努力だが、各県の県政クラブにお知らせして、地方の新聞に書いてもらうということもやった。今回の場合、例えば今の学会等々の活用もあるかと思うし、それから、全府まではちょっ

と難しいかもしれないが、市内の範囲であればできる可能性があるので、新聞の折り込みのチラシのようなことも考えていきたいと思っている。

（木元座長）予算は大丈夫か。

（犬塚参事官補佐）検討したい。

（木元座長）埼玉ではチラシを使わせていただいたが、そういう幾つかの方法をできる限りやるという形でまず公募をさせていただく。

それで、いつから公募をやるかはこちらの方でまた考えるが、そのときの設問を幾つか考えなければならない。例えば、核燃料サイクルを日本では施策としてとっているけれども、あなたのお考えはと漠然とした質問の仕方もあるだろうし、六ヶ所村という特定した質問の仕方もあるだろうし、あるいは策定会議で想定している４つのシナリオをご提示して、その上であなたのお考えを聞かせてくださいというか、いろいろな方法があると思うが、いかがか。幾つかに質問をこちらで考えて、皆様にまたファクスなり何なりでお送りして、ご意見を伺うという形にさせていただくがそれでよろしいか。

それでは、当日来られる方の中でどうしてもこれだけは大阪でやる場合には心しておきたいというようなご意見はあるか。

女性の方が昼間だから来ていただけるのかなという期待感はあるが、テーマがテーマなので、関係者の方がまたお出でになるかもしれないが、極力一般の方にたくさんお見えいただくようにこちらも努力するので、よろしくお願いしたい。碧海委員。

（碧海委員）今まで私たちが経験したことでいうと、暮らしと放射線のフォーラムを大阪でやったり、アンケートなどもやったりするが、みんな大阪はちょっと参加率が低い。そういう意味で井上委員に伺いたいのだが、人集めはいろいろな手を使わないといけないのではないか。

先ほど委員長が原子力学会とおっしゃったが、オープンスクールはそのころは関西ではなかったか。

（齋藤原子力委員長代理）オープンスクールがその時期にあるかどうかわからないが、９月１５日から原子力学会の秋の大会を京都大学でやる。

（木元座長）最後になるが、今回の大阪での市民参加懇談会の担当を４人ぐらい、私を入れて５人ぐらい決めさせていただきたいと思う。井上委員、まず

お願いできるか。それから、中村委員、お願いできるか。あとどなたかやろうという方、新井委員、お願いできるか。吉岡委員、そうするとまた東嶋委員になってしまうけれども。
ということで、新井委員、井上委員、東嶋委員、中村委員、吉岡委員の５人とプラス私でやらせていただきたいと思う。
次回のコアメンバー会議の日時、議題は別途また皆さんのスケジュールを伺わせていただき、○×をしていただければありがたいと思う。
それから、第７回市民参加懇談会の議事録（案）、これにはコラムが入った細かい字の方だが、あのときの発言にあった間違った意見などを正したいというご意見があった。そこで、議事録中に囲みで入れて、図なども入れている。後でチェックいただければと思う。これをホームページで公開したい。
それから、今日の議事録の取り扱いはいつものようにご出席の皆さんに確認後、原子力委員会のホームページで公表させていただくので、よろしくお願いしたい。

以上